

## メッセージ

「全国交流集会」が開催されるに当たり、メッセージをお送りいたします。

ヒロシマは、64年前の被爆体験を原点に、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現を訴え続けてきました。しかし、今なお地球上には膨大な量の核兵器が備蓄・配備されており、人類は、「全ての国が核兵器を持つ」のか、「核兵器のない世界を創る」のか、という選択を迫られています。

こうした中、本市は、全世界からの3,147都市が加盟する平和市長会議やこれら加盟都市の市民、世界のNGO等と連携して、2020年までの核兵器廃絶を目指した取組を進めています。

今年4月、米国のオバマ大統領は「核兵器のない世界」の実現を目指すことを明言し、9月の国連安全保障理事会では「核兵器廃絶決議」の全会一致での採択をリードしました。核兵器廃絶に向け世界が動く契機となったこの事実は、ノーベル平和賞として評価され、私たちに大きな希望を与えました。

本市では、核兵器廃絶を求める世界の多数派である私たち自身を「オバマジョリティー」と呼ぶことを提唱しています。オバマ大統領に任せきりでは核兵器の廃絶が実現しない現実を認識し、私たち市民や都市がさらなる努力を続ける決意を表明するためです。

この「オバマジョリティー」を合言葉に、世界の市民が力を合せ、2020年までの核兵器廃絶とその具体的道筋を示す「ヒロシマ・ナガサキ議定書」の来年のNPT再検討会議での採択に向けた国際世論を更に大きくしたいと考えています。

対人地雷の禁止、グラミン銀行による貧困からの解放、温暖化の防止等、大多数の世界市民の意思を尊重し市民の力で問題を解決する地球規模の民主主義が今、正に発芽しつつあります。その芽を伸ばし、核兵器廃絶というさらに大きな問題を解決するためにも、平和を願う「全国交流集会」が開催されますことは誠に意義深く、その取組に対し深く敬意を表します。

私たちは、「オバマジョリティー」として、国内外の核兵器廃絶に熱心なリーダーたちと共に、力を合わせ核兵器廃絶に向け努力しなければなりません。

皆様には、今後とも、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現のため、私たちと共に力を尽くし、行動して下さいることを心から期待いたします。

終わりに、「全国交流集会」の御成功と御参加の皆様のご今後ますますの御健勝と御多幸をお祈りいたします。

平成21年（2009年）10月

広島市長 秋葉 忠利